

書名		新編 新しい国語	2 東 書
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○目次の中に、「基礎編・資料編」が明示されていて、国語学習の復習や発展的な学習へも対応できるようになっている。</p> <p>○領域別の一覧もあり、国語科の「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の観点に応じて、「この教材で、どのような学習活動をして、どのような力を身に付けるのか」が示されている。</p>		
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○教材ごとに「てびき」を設定して、基礎基本の定着を図るとともに、「たすけ」があり、発展的な学習にも対応している。</p> <p>○各単元の「学びの扉」と巻末の「学びを支える言葉の力」が連動しており、基礎的な学習事項を確認できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「伝え合う」を意識した言語活動が設定されていて、生徒同士の交流として発表・話し合いを通して、それぞれが深められるように工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○巻頭に、全体の構成や「学習の進め方・教科書の使い方」が見開き・図入りで具体的に示されている。</p> <p>○「読書案内」もカラーで表紙が印刷され、本文中の一部が紹介されている。</p> <p>○漢字の学習のページでは、直接記入できるようになっている。</p> <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <p>○「広がる言葉」や「日本語探検」が、コラム的に適度に散りばめられている。</p> <p>○脚注の新出漢字や語句の意味が、大きく掲載されている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○伝統的な言語文化に関わる教材として、様々な古典作品を掲載し、1学年の古典作品に「古事記・源氏物語・浦島太郎」等の多くの作品が掲載されている。</p>	
	資料	<p>○巻頭の「学習の進め方・教科書の使い方」「これからの1年間で学ぶこと」が示されている。</p> <p>○巻末の資料編の「言葉を広げよう」では、活用例が短文で示され、「新出漢字一覧」では、筆順と多くの熟語が示されている。</p> <p>○各単元のごとの扉の写真を含め、図や表、挿絵や写真が多く使われている。</p>	
	表記・表現	<p>○読み物単位には、脚注に「新出漢字」や「難語句」の意味が記されている。</p> <p>○単元の合間に「広がる言葉」や「広がる漢字」、「問題」等が配置され、ワークのようにも活用できる。</p> <p>○挿絵に版画や墨絵を使っている。</p>	
総括	<p>○3学年とも、本編・7つの単元と基礎編・資料編で構成されている。</p> <p>○教材ごとに、生徒が身に付けたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示して、3年間で積み上げるようになっている。</p> <p>○「学びを支える言葉の力」で、他教科との学習とのつながりや生活とのつながりを意識している。</p> <p>○「読むこと」については、「てびき」に「読みとる」、「考えを深める」の2段階の課題が示されている。</p>		

項目	<div style="text-align: center;"> 中 学 国 語 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;"> 11 学 図 </div>
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○本編は5つの単元「絆」「生命」「群像」「伝統」「世界」で構成され、単元学習として、発展的な学習が可能になっている。 ○生徒同士の交流学习を進める教材や言語感覚を豊かにするための内容を示し、読解力・国語力の向上を図るようになっている。 ○古典教材の導入に、解説文を配置し、伝統的な言語文化に対する認識を深めさせるようになっている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1教材では、本文中に記号を付け、具体的な学習課題が示されている。 ○読むことの教材には、「学びの窓」を設けて、学習の仕方や学習の振り返りの機会を設けている。 ○「読むこと」の学習内容を「話すこと・聞くこと」「書くこと」の表現活動につなげるために「活動を考える」というコラムを設けている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主な単元に「発見する読み」を配置し、生徒同士の考えや意見交流の場面を学習課題に設定している。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材の最初に学習の目標を示している。「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「学習の見通しをもとう」を設けて、ねらいと活動の流れを示している。 ○読みの教材では、最後に「読書を広げるために」を設け、関連する図書の紹介をしている。 <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「漢字を見抜く」や「言葉と生活・言葉と文化」で漢字や言葉に興味・関心をもちながら、学習ができるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝統的な言語文化に関わる教材として、古典作品を掲載するとともに、「宇治拾遺物語」「遠野物語」などを取り上げている。 <p>○巻頭に、「この教科書を使うあなたへ」として、教科書の使い方を示している。</p> <p>○巻末に「言葉の学習」として各学年で学ぶ文法の内容をまとめたり、語句・語彙をまとめたり、古典文法を掲載している。</p> <p>○脚注に多くの語句が提示されている。</p>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年とも、5つの単元で構成されている。 ○「読むこと」では、基礎的・基本的な学習をする教材では、脚注に学習課題が示されている。また、それぞれの教材に「読む前に」「読みを深める」「まとめ」の3段階の課題を設けて、教科書に直接記入できる欄もある。 ○「ついた力を確かめよう」では、生徒自身が学習を振り返り、チェックしながら、生徒に応じた学習も可能である。

書名		現代の国語	15 三省堂
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○本編と資料編の2部構成である。</p> <p>○学習の系統性を図った教材が配置され、学習意欲の喚起と確かな言葉の力の育成のために、関連を図っている。</p> <p>○古典学習の導入を工夫し、写真やイラストを多く用いて、伝統的な言語文化・芸能に触れながら、現代の日常生活と結びつけながら学習できるようになっている。</p>		
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○単元に「読み方を学ぼう」を設けて、課題の解決方法や思考のポイントを図解やモデリングで示している。</p> <p>○「学びの道しるべ」では、段階的に繰り返しをしながら、単元の「目標の確認・内容理解・思考の変化」を図っている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○1学年に「三角ロジック」「三角ロジックで論理的思考力を鍛えよう」などの論理的思考力、説得性のある表現力を身に付けさせるための教材を配置して、対話や話し合いなどの共同的な言語活動の場を設けている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各教材に学習の目標を示している。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では「学習を振り返る」、「読むこと」では、「学びを広げよう」を設けて、生活に生かす手立ても示している。</p> <p>○「私の本棚」で関連する図書の紹介をしている。</p> <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <p>○「学びの道しるべ」において、課題解決のためのキーワードを示している。</p> <p>○「学びを広げよう」では、即興劇や対話劇も取り上げている。</p> <p>○「ことば発見」を系統的に掲載している。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○伝統的な言語文化に関わる教材として、古典作品を掲載するとともに、資料編で「落語」「歌舞伎の世界」「能・狂言の世界」を取り上げている。</p>	
	資料	<p>○巻頭に「領域別教材一覧」を6ページにわたり掲載して、付けたい力と言語活動例が示されている。</p> <p>○巻末に「読書の広場」「考える広場」「参考資料」が示され、補充学習・発展的な学習を意識した教材を掲載している。</p> <p>○1学年の参考資料の中に「手紙・はがき・メールの書き方」を提示している。</p>	
	表記・表現	<p>○新出漢字を脚注に1文字ではなく、1語として掲載している。</p> <p>○参考資料「〇年生で学ぶ漢字辞典」では、筆順・部首とともに多くの用例を掲載している。</p> <p>○脚注に絵や図が、多く示されている。</p>	
総括	<p>○1学年と2学年は7単元、3学年は6単元の本編と資料編で構成されている。</p> <p>○「読むこと」では、「学びの道しるべ」として「内容を整理しよう」「考えを深めよう」「学びを広げよう」と3段階の学習課題を示している。</p> <p>○「読み方を学ぼう」では、何をどのように読み進めれば、力が付くのかを図解で示すとともに、言語活動の場面とも関連付けて説明している。</p>		

項目	書名 伝え合う言葉 中学国語 17 教出
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○本編は、テーマごとに7～8の単元で構成されていて、各学年の目標と内容、言語活動例がバランスよく配置されている。 ○様々な伝え合う力を育成するための教材が、設定されている。 ○古典教材を「読むこと」と「伝統的な言語文化」の両方の視点からに系列化して、視覚資料やコラム教材を設定している。
特色	<p>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」には、「学びの重点」を設けて、身に付けたい学習内容を示している。「活動のポイント」を例文にあげ、表現の仕方や表現方法を学ばせるようにしている。 ○「読むこと」では、「みちしるべ」を提示して、学習の進め方や重点をまとめている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」では、「確かめよう」「深めよう」「考えよう」と段階的に学習を深めるように設定している。 ○所々にある「ここが大事」では、学習の重点を示している。 <p>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材の「みちしるべ」には、目標と振り返りを示している。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「学びを生かそう」を掲示して日常に生かせるようにしている。 ○「読むこと」では、「読んでみよう」で、関連する図書を紹介している。 <p>＜言語感覚を豊かにする工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コラム「言葉と仕事」では、一流のスポーツ選手と言葉のつながりを意識させる内容である。 ○「四季のたより」「漢字の広場」など、生徒の興味・関心を高める工夫がある。 <p>＜国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝統的な言語文化に関わる教材として、多くの古典作品を掲載するとともに、古典と現代とのつながりを考えさせるために「蜘蛛の糸」などを取り上げている。
	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「言葉」をテーマにした文章を掲載している。 ○「この教科書の使い方」に教材ごとの言語活動例や学習内容の重点が示されている。 ○学びのヒントや補充学習を意識した巻末に「言葉の自習室」がる。
	<p>表記・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真や図が多いし、脚注の絵や図がカラー印刷されている。 ○新出漢字と小学校6学年で学習した漢字の用例と筆順がまとめて示してある。 ○巻末に「理解や表現に役立つ言葉」「学習に必要な用語」の索引がある。
	<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1学年・2学年は8単元、3学年は7単元、言葉と文法、漢字、言葉の自習室で構成されている。 ○「読むこと」では、「確かめよう」「深めよう」「考えよう」の3段階で課題解決を図るように示されている。 ○「学びのチャレンジ」では、思考力・判断力・表現力などを高めるための教材の発展的な課題を設定している。

書名 項目	国語 38 光村
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びをひらく」「言葉をつなぐ」「いにしへの心にふれる」など学習に関わるキーワードを中心に7単元・資料・付録で構成されている。 ○発達の段階を踏まえて、習得と活用をくり返しながら国語を学習させ、着実に力が身に付くように系統を図った教材を配置している。 ○特設のページ「季節のしおり」を設定し、主体的に言葉に関わるような姿勢や、古典の世界にも興味・関心をもたせるようにしている。
特色 内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材には、「学習」を設け、「目標」「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」の3段階の課題解決を図っている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「次へつなげよう」を示し、学習を振り返りながら、「生活に生かす」視点を設けている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」では「学習の窓」を設けて、活用的な言語活動や学習の重点を提示している。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、生徒同士の交流を意識した取り組みを配置している。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「効果的な学習のために」や「学習の見通しをもとう」を設け、学習のポイントを示している。「読むこと」では、関連する図書を紹介している。 <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「参考にしたい表現」や「感想を表す言葉」などを示している。 ○「季節のしおり」で季節のこよみや詩を紹介している。 ○「読書コラム」や「読書案内」に多くの図書が紹介されている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝統的な言語文化に関わる教材として、古典作品を掲載するとともに、1学年の教材に「月に思う」を取り上げ、現代とのつながりを意識させている。また資料集の中に「古典落語」を掲載している。
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に、「この教科書で学習するみなさんへ」として教科書の使い方を示し、また、「学習の見通しをもとう」では、領域別の一覧があり、教材ごとに学習内容と学習活動が示されている。 ○巻末に1年間に学習する新出漢字がまとめて示され、筆順や熟語、短文が数多く示されている。また「学習のための用語一覧」を索引として示している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に落ち着いた色遣いで、関連事項を脚注に絵や地図、写真で紹介している。 ○新出漢字も1文字ではなく1語として脚注に示している。 ○本編の各単元だけでなく、「書く」「話す・聞く」の教材にもインデックスがある。また「資料編」にもインデックスがある。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年とも7単元と巻末の文法・漢字・資料・付録で構成されている。 ○「読むこと」では、「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」の3段階で課題を提示して、「学習を振り返る」で生徒の学習を確認させるようになっている。 ○言語活動で身に付けた言葉の力を日常生活等で生かせるように「生活に生かす」「他教科に生かす」を設けている。